第９回　マネジメント研究科教育課程連携協議会　議事録

１　日　時　　２０２６年８月１８日（火）　１４時００分～１５時３０分

２　場　所　　北九州市立大学北方キャンパス　Ｅ－７０１会議室

３　出席者

（１）教育課程連携協議会委員　出席：１１名、欠席３名

	氏　　名	役　　職	出欠
会 長	松永　裕己	北九州市立大学大学院マネジメント研究科長（教授） （兼）マネジメント研究科自己点検評価委員長	出 席
委 員	河中　道生	株式会社北九州銀行　取締役執行役員	出 席
委 員	権頭　喜美惠	社会福祉法人もやい聖友会　理事長	欠 席
委 員	高松　雄太	株式会社安川電機 人事総務・リスクマネジメント本部 人事戦略部長	欠 席
委 員	中村　正伸	香川大学大学院 地域マネジメント研究科長	出 席
委 員	羽田野　隆士	北九州商工会議所 特別顧問	出 席
委 員	松村　洋	北九州市医師会　会長	欠 席
委 員	水谷　美咲	ＴＯＴＯ株式会社　執行役員　人財本部長	代理人 出 席
委 員	柳井　雅也	北九州市総務市民局　人材開発担当部長	出 席
委 員	吉村　知泰	北九州市立大学理事（事務局長）	出 席
委 員	鳥取部　真己	北九州市立大学大学院マネジメント研究科教務委員長（教授）	出 席
委 員	古賀　桃子	北九州市立大学大学院マネジメント研究科ＦＤ委員長（教授）	出 席
委 員	平田　エマ	北九州市立大学大学院マネジメント研究科広報委員長（教授）	出 席
委 員	王　効平	北九州市立大学大学院マネジメント研究科 中華ビジネス研究センター長（教授）	出 席

（敬称略、学外委員は五十音順）

（２）オブザーバー（北九州市立大学教員）出席４名

職　名	氏　名
北九州市立大学大学院マネジメント研究科准教授	日下　勇歩
北九州市立大学大学院マネジメント研究科教授	武田　寛
北九州市立大学大学院マネジメント研究科准教授	高橋　秀直
北九州市立大学大学院マネジメント研究科教授	松田　憲

4　議事内容

（１）研究科長挨拶

（２）教育課程連携協議会委員紹介

（３）協議事項

①　2026 年度入試状況および入学者概要について

【松永会長】

＜配布資料１により、2026 年度入試状況および入学者概要について説明＞

・2026 年度は、昨年度に引き続き定員を超える 35 名の入学者を確保することができた。
・女性志願者の割合目標である４割の達成に向けて、引き続き注力していく。
・企業推薦入試制度については、昨年度 6 名、本年度 7 名が利用しており、一定の効果が見られる。
・入学者の関心領域として、近年は地域貢献や地域振興への関心が高まっている。
・広報については、口コミや大学ホームページをきっかけとした入学者が多く、入口としての SNS の効果は限定的である一方、チラシやポスター等による広報も一定の効果があると認識している。今後も、修了生ネットワークの強化や K2BS のブランド力向上のための取り組みを通じて、安定的な学生確保につなげていきたい。

【羽田野委員】

・入学者数の低迷に対して、何か対策を講じているのか。

【松永会長】

・2024 年度までの入学者減について分析を行い、対策を行ってきた。
カリキュラム改定や企業派遣・推薦制度等が功を奏し、ここ２年間は定員を超える入学者の確保を実現できている。

【羽田野委員】

・これまで、広報活動については検証してきたか？
武内市長は広報活動に長けており、報道で取り上げられることが多い。市民から見ると北九州市が元気になっているという印象を与えている。
マスコミに取り上げられるような見せ方、広報力は参考にすべきと思う。

【松永会長】

・マスコミへの露出状況については十分な分析ができていない。教員個人のマスメディアへの露出はあるが、それが必ずしも研究科の周知につながっていない面がある。イベント実施時にはプレスリリースを行っているが、より効果的な広報手法について検討したい。

【平田委員】

・知人の記者等に対して、イベント開催時には個別に案内を行っている。報道機関との接点はあるものの、実際の取材や記事掲載につながる機会は多くない。

【河中委員】
・ホームページの更新や見せ方などについて、専門の部署はあるのか。
・大学ホームページからK2BSの情報へたどり着きにくく、導線の改善が必要である。デジタルマーケティングの観点からも、利用者目線でホームページの構成や導線を見直すべきではないか。

【松永会長】
・ホームページ更新は事務局を中心に実施しているが、専門部署や専門的な分析体制は整備されていない。

【吉村委員】
・K2BSに限らず、各部局の情報にたどり着けないという課題は感じている。現在、大学全体としてホームページの改修を行っているので、ご意見を参考にしたい。

【藪野様】
・K2BSの強みは何か。また、その強みをどのように発信しているのか。QBSとの差別化や特色について教えてほしい。
・起業家や事業承継者の育成について、どのような考えを持っているのか。

【松永会長】
・QBSの特徴は、福岡市という立地上、大企業の支店や九州管内の大手企業が集積していることもあり大企業のマネージャー育成に強みがあると認識している。
これに対し、K2BSは、地域におけるビジネスとパブリックの双方を理解する人材の育成を目的としており、入学してくる学生も多種多様な人材が集まってくる。フィールドワークの多さやアクティブラーニングを主として実施することを特色としている。修了生からも、多様な背景を持つ学生との学びや交流が大きな価値として評価されている。
また、創設当初は経営者や後継者、起業家志向の学生が一定数在籍していたが、近年は減少傾向にあるため、今後も強化していきたい。

② 専門職大学院認証評価について

【松永会長】
＜配布資料２により、専門職大学院認証評価結果について説明＞
・2025年度に4回目の認証評価を受審し、「適合」の評価を受けた。
・特色として、社会課題の解決を担う人材育成、ビジネスとパブリックを横断する教育課程、地域課題を反映した教育内容、フィールドワークを活用した実践的な学修、オフサイトミーティングによる授業改善の取組等が評価された。
・一方で、中期ビジョンと大学全体の中期目標・中期計画との関連性、履修モデルや科目

群の整理、成績評価の適切性等について改善を求められた。

【中村委員】
・認証評価で指摘された大学全体の中期目標・中期計画と研究科との関係については、多くの大学で課題となっている。
・香川大学でも大学全体のビジョンと専門職大学院の方針を連動させながら運営している。
・今後の大学改革や 18 歳人口減少への対応を踏まえると、大学全体の方向性の中でマネジメント研究科を位置付けることが重要である。

【松永会長】
・大学全体のビジョンや中期目標との整合性については、学長とも協議しながら対応を進めていきたい。
・今後のカリキュラム検討に当たり、企業や行政の立場から必要と考える能力や教育内容について意見を伺いたい。

【柳井委員】
・近年は、公務員・民間企業を問わず、自身のキャリア形成やスキル向上を重視する人材が増えており、国も 6 月に各府省庁で身に着けるスキル一覧を出している。特に DX、AI、デジタルリテラシー等のスキルは今後ますます重要になると考えている。

【松永会長】
・マネジメント研究科では、DX 科目を設置しているほか、今年度から一部科目で AI を活用した授業を実施予定である。AI 教育については試行段階であるが、活用方法だけでなく、AI 時代における新たな働き方やビジネスモデルを創造する力の育成が重要であると考えている。

【中村委員】
・香川大学においても AI 活用に関する議論を進めており、教育面では AI の利用方法だけでなく、適切な問いや課題を設定する力の育成が重要であるとの認識で検討を行っている。企業においても、AI を効果的に活用するための思考力や課題設定能力を備えた人材が求められるのではないか。

【松永会長】
・他大学視察の際、大学内での AI 活用について目の当たりにして、本学も早急に考えていかなければならない。

③　2026 年度の重点施策について

【松永会長】
＜配布資料３により、2026 年度の重点施策について説明＞

・20 周年記念事業では、修了生ネットワークの強化や地域における K2BS の認知度向上、入学者確保につなげることを目的としている。
・企業や団体と連携したセミナーを継続的に実施しており、昨年度は事業承継、新規事業創出、女性活躍等をテーマにセミナーを開催した。今年度は、まちづくり分野やスモールビジネス分野をテーマとした連続講座を実施している。
・地域の企業や団体との連携を強化しながら、K2BS の認知度向上やブランディングにつなげていきたい。

【河中委員】
・女性活躍について、企業は女性の経営参画の比率などが課題となるが、大学院では入学者増加に向けた取組として、どのような工夫を行っているのか。

【松永会長】
・女性管理職候補の育成は地域にとって重要な課題であり、K2BS としても女性学生の増加を目指している。
・女性教員の比率向上や、ダイバーシティマネジメント科目の設置、女性活躍に関するセミナーの開催等に取り組んでいる。
・一方で、女性学生比率の向上に向けては引き続き試行錯誤している状況である。

【河中委員】
・自社では、役員が女性社員を担当制でフォローアップし、キャリア形成や業務上の悩み等について継続的に面談を行っている。
・修了生へのヒアリングや情報収集を通じて、女性活躍に資する教育内容の検討を行うことも有効ではないか。

【松永会長】
・カリキュラム改編の際には修了生へのヒアリングを実施しているが、恒常的な実施体制は構築されていない状況。今年度構築していきたい。

【藪野様】
・教育訓練給付制度について、周知状況を伺いたい。

【松永会長】
・入学時や説明会等では制度の説明を行っており、一定数認知されていることは把握しているが、より広い層への周知については今後の課題である。

【中村委員】
・MBA に関心を持つ方も様々な方法で検索をしているため、給付金制度も認知されてきているように感じている。
・大学卒業資格がなくても資格審査により受験できることは、十分に知られていないのではないか。短大卒や専門学校卒の社会人女性等への周知を強化することで、受験者確保

につながる可能性がある。

【松永会長】
・資格審査制度の認知向上は課題と認識している。特に医療系などで専門学校を出た方なども多くいる。学びへの意欲や課題意識を持つ人材に積極的に門戸を開いていきたい。

【柳井委員】
・広報においては、情報発信だけでなく、受け手の共感を得る工夫が重要である。
・特に関心の薄い層には動画でのアピールが有効ではないか。
・自社の実績で申し上げると、検索行動を前提としたホームページの設計や動画の活用が有効であった。今後はAIの普及を見据えた情報発信のあり方についても検討が必要である。

【松永会長】
・今後の広報活動やホームページ運営の参考としたい。

【中村委員】
・MBAは地域の縮図のような存在であると、多様な人材が交流する価値となる。地域貢献や地域課題に関心を持つ人材を取り込むことが、今後の発展につながるのではないか。

【松永会長】
・修了生ネットワークはK2BSの大きな財産であり、その活動や成果の可視化を進めながら、ネットワークの強化につなげていきたい。
・委員からいただいた意見を今後の研究科運営や教育課程の改善に活かしていきたい。

＜終了＞
定刻となったため終了。